沿革

HISTORY Kyushu University Hospital

慶応3年		黒田藩の藩校として西洋医学の医育機関「賛生館」を現在の福岡市中央区大名に設置。
明治7年	12月	賛生館の附属病院を新たに診療所として修猷館内に開設。
10年	6月	診療所を「福岡病院」と改称すると同時に博多中之島元製練所跡に移転。
12年	3月	福岡病院は県に移管され県立福岡医学校附属病院と改称。
21年	4月	県立福岡医学校の廃止により同附属病院は県立福岡病院と改称。
36年	3月	京都帝国大学福岡医科大学が設置され、県立福岡病院は京都帝国大学福岡医科大学附属医院となる。看護婦養成所設置。
44年	4月	九州帝国大学医科大学附属医院と改称。
大正8年	4月	九州帝国大学医学部附属医院と改称。
13年	4月	生の松原分院設置。診療開始。
昭和6年	10月	温泉治療学研究所設置。
22年	10月	九州大学医学部附属医院と改称。
24年	5月	九州大学医学部附属病院と改称。 当時の診療科等：内科(3)、外科(2)、眼科、産婦人科(後に産科婦人科と改称)、小児科、耳鼻咽喉科、精神病科(後に精神科神経科と改称)、整形外科、歯科(後に歯科口腔外科と改称)、皮膚科、泌尿器科、放射線科、薬局。
32年	1月	中央臨床検査部設置。
34年	4月	事務部に事務部長制導入。管理課、業務課設置。
37年	3月	看護部設置。
	4月	薬局を薬剤部と改称。
38年	4月	麻酔科、心療内科、中央手術部設置。
39年	4月	神経内科設置。 温泉治療学研究所附属病院設置。 当時の診療科等：内科、外科、産婦人科、皮膚泌尿器科、薬剤部。
40年	4月	循環器内科設置、中央臨床検査部は中央検査部と改称。
41年	4月	脳神経外科、中央放射線部設置。
42年	6月	生の松原分院を胸部疾患研究施設内科と改称。 歯科口腔外科が歯学部として独立。歯学部附属病院設置(第一保存科、第一補綴科、口腔外科)。
43年	4月	中央材料部設置。(研病)温泉地生気候内科設置。
44年	4月	集中治療部設置。
45年	4月	(歯病)予防歯科、矯正科設置。
46年	4月	(歯病)第二保存科、第二補綴科設置。
48年	4月	心臓外科設置。(研病)リハビリテーション部設置。
	8月	胸部疾患研究施設内科は生の松原における診療を廃止し、本院地区に統合。
49年	4月	病理部設置。胸部疾患研究施設内科を呼吸器科と改称。事務部を改組し、総務課、管理課及び医事課の3課を設置。
50年	2月	中央検査部、中央手術部、中央放射線部、中央材料部を検査部、手術部、放射線部、材料部と改称。
	10月	輸血部設置。
51年	5月	国立学校設置法改正により、看護部を設置。
	10月	小児外科設置。(歯病)歯科放射線科設置。
52年	10月	救急部設置。(歯病)第一口腔外科、第二口腔外科設置。
53年	10月	分娩部設置。(歯病)小児歯科設置。
54年	10月	冠動脈疾患治療部設置。
56年	4月	理学療法部設置。
57年	4月	医療情報部設置。 温泉治療学研究所及び医学部附属癌研究施設を改組・統合し生体防御医学研究所を設置。 温泉治療学研究所附属病院は生体防御医学研究所附属病院となる。 診療科：内科、外科、産婦人科、皮膚泌尿器科、温泉地生気候内科。 診療施設：リハビリテーション部を慢性疾患診療部に名称変更。
58年	4月	腎疾患治療部設置。
59年	4月	腫瘍センター設置。
62年	5月	総合診療部設置。
63年	4月	(歯病)歯科麻酔科設置。
平成元年	5月	麻酔科を麻酔科蘇生科と改称。周産母子センター設置。
2年	6月	(研病)皮膚泌尿器科を体質代謝内科に変更。
3年	4月	理学療法部を廃止し、リハビリテーション部設置。
4年	4月	(研病)内科をリウマチ膠原病内科に、外科を腫瘍外科に、産婦人科を生殖内分泌婦人科に、温泉地

1867
慶応3年

賛生館の図書印
(福岡市博物館所蔵)

1885
明治18年

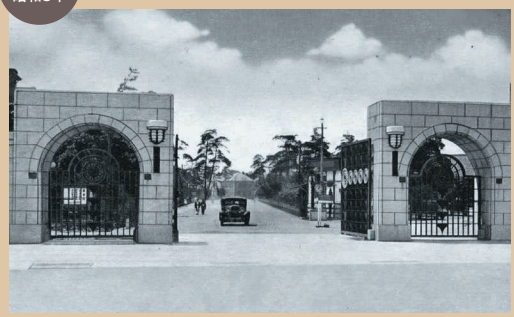
恩師デーニッツと大森治豊ら福岡医学校の教師たち

		生気候内科を気候内科に変更。
5年	4月	(歯病)特殊歯科総合治療部設置。
7年	4月	特定機能病院として承認。
10年	1月	医療器材サプライセンター設置。
11年	4月	光学医療診療部設置。治験管理センター設置(院内措置)。
13年	10月	南棟竣工。
14年	4月	南棟開院。
		先端医工学診療部設置。(歯病)11診療科を口腔保健科、口腔機能修復科、口腔顎顔面外科の3診療科に再編。口腔総合診療部設置。
	10月	臨床教育研修センター設置(院内措置)。
15年	4月	輸血部を改組し、遺伝子・細胞治療部を設置。
	5月	遺伝子・細胞治療部と腫瘍センターを統合し、遺伝子・細胞療法部設置(院内措置)。
	10月	医学部附属病院、歯学部附属病院、生体防御医学研究所附属病院を統合。
		(名称:九州大学医学部・歯学部・生体防御医学研究所附属病院　呼称:九州大学病院)
		診療支援部設置。
		臨床研究センター設置(院内措置)。
		事務部を改組し、総務課、戦略企画課、医療管理課、経理課及び患者サービス課の5課を設置。
		別府地区に別府先進医療センターを設置。
		・体質代謝内科を先端分子・細胞治療科に改組し、福岡地区に設置。
		・免疫・生活習慣病内科を設置。専門診療科として免疫・血液・代謝内科専門診療科(リウマチ膠原病内科を改組)及び循環・呼吸・老年病内科専門診療科(気候内科を改組)を置く。
		・がん治療科を設置。専門診療科として外科専門診療科(腫瘍外科を改組)及び産婦人科専門診療科(生殖内分泌婦人科を改組)を置く。
16年	4月	国立学校設置法が廃止され、国立大学法人法に基づき国立大学法人九州大学を設置。
17年	1月	内視鏡外科手術トレーニングセンター設置(院内措置)。
	5月	材料部を廃止し、医療器材サプライセンターを設置。
		遺伝子・細胞治療部と腫瘍センターを統合し、遺伝子・細胞療法部を設置。
		臨床教育研修センター及び臨床研究センターを設置(院内組織の整備)。
		「診療支援部」を「医療技術部」に改称。
		地域医療連携センター、感染制御部及び医療安全管理部の整備(院内措置)。
	6月	(別府地区)産婦人科専門診療科の診療を休止。
	10月	北棟竣工。
18年	4月	北棟開院。
		第一内科を血液・腫瘍内科及び免疫・膠原病・感染症内科に、第二内科を消化管内科及び腎・高血圧・脳血管内科に、また第三内科を内分泌代謝・糖尿病内科及び肝臓・膵臓・胆道内科に再編。
		臨床研究センターを廃止し、高度先端医療センターを設置。
		口腔ケア・予防科を廃止し、義歯科を義歯補綴科、咬合治療科を咬合補綴科と改称。
		(別府地区)産婦人科を廃止。
		小児医療センター、ハートセンター、ブレインセンターを設置(院内措置)。
	8月	救急部を廃止し、救命救急センターを設置。
	9月	先進予防医療センターを設置。
19年	4月	7対1看護体制導入。
		がんセンターを設置。
20年	3月	ウエストウイング竣工。
	4月	油症ダイオキシン研究診療センターを設置。
		地域医療連携センターを設置(院内組織の整備)。
		「周産母子センター」を「総合周産期母子医療センター」に改称。
	7月	ヘリポートを開港。
	10月	アジア遠隔医療開発センターを設置。
21年	1月	「総合診療部」を「総合診療科」に改称。
	2月	(別府地区)放射線科を設置。
	4月	外来診療棟竣工。
	5月	子どものこころの診療部を設置。
	9月	外来診療棟開院。
		再生歯科・インプラントセンターを設置。
22年	1月	第一外科を消化管外科(1)、胆道・膵臓・膵臓移植・腎臓移植外科、呼吸器外科(1)、乳腺外科(1)及び内

1911
明治44年

九州帝国大学医科大学最初の卒業生

1928
昭和3年



医学部正門(昭和3年竣工)
医学部創立25周年を記念して建造された

沿革

HISTORY Kyushu University Hospital

		分泌外科に、第二外科を消化管外科(2)、肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科、呼吸器外科(2)、乳腺外科(2)及び血管外科に、心臓外科を心臓血管外科に、泌尿器科を泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科に、また耳鼻咽喉科を耳鼻咽喉・頭頸部外科に再編。
23年	4月	別府地区の別府先進医療センターは、組織再編に伴い九州大学病院の分院(九州大学病院別府病院)として開院。
		九州大学医学部・歯学部・生体防御医学研究所附属病院を医学部・歯学部附属病院に改称。(呼称:九州大学病院)
		「医療情報部」を「メディカル・インフォメーションセンター」に改称。
		睡眠時無呼吸センターを設置。
		別府地区の「病診連携室」を「地域医療連携室」に改称。
	6月	「地域医療連携センター」を「医療連携センター」に改称。
	11月	「感染制御部」を「グローバル感染症センター」に改称。
24年	1月	(別府地区)麻酔科を設置。
	5月	「高度先端医療センター」を「ARO次世代医療センター」に改称。
25年	4月	「小児歯科」を「小児歯科・スペシャルニーズ歯科」に改称。
		リウマチ膠原病内科学共同研究部門を設置。
	5月	小児救命救急センターを設置。
	9月	先進予防医療センターを廃止。
	11月	「病理部」を「病理診断科・病理部」に改称。
26年	2月	デンタル・マキシロフェイシャルセンターを設置。
		形成外科を設置。
	4月	周術期支援センターを設置。
		周術期口腔ケアセンターを設置。
		患者相談支援室を設置。
	8月	「小児外科、小腸移植外科」を「小児外科、成育外科、小腸移植外科」に改称。
27年	1月	臨床教授等病院として指定。
	4月	国際医療部を設置。内部組織として、海外交流センターを新設、アジア遠隔医療開発センターを編入、医療連携センター国際医療連携室を国際診療支援センターとして改編、編入。
		ARO次世代医療センターを全学の先導的学術研究拠点として改組。病院内の支援組織として、臨床研究推進部門を設置。
		「栄養管理部」を設置し、「栄養管理室」を内部組織として位置づけ。
28年	1月	臨床研究中核病院として承認。
	4月	リハビリテーション科を設置。
	11月	看護キャリアセンターを設置。
	12月	血液・腫瘍内科を血液・腫瘍・心血管内科に改称。
		口腔総合診療部、特殊歯科総合治療部を改組統合して口腔包括診療科とし、専門診療科として口腔画像診断科、口腔総合診療科、高齢者歯科・全身管理歯科を設置。
29年	3月	外国人患者受入れ医療機関認証制度により認証。
	4月	先導的学術研究拠点のARO次世代医療センターの時限到来に伴い、臨床研究推進部門を九州大学病院ARO次世代医療センターに改組。
		高度新規医療評価部を設置。
		事務部戦略企画課を経営企画課及び研究支援課に改組。
	6月	ECMOセンターを設置。
	8月	造血幹細胞移植地域支援センターを設置。
	12月	別府病院「リハビリテーション科」を設置。
30年	1月	別府病院「整形外科」を「整形外科(脊椎脊髄)」に改称。
	2月	がんゲノム医療中核拠点病院として指定。
	3月	福岡県原子力災害拠点病院として指定。
	4月	医療安全管理部を中央診療施設に改組。
	10月	集学的痛みセンター、歯科総合予診室及び口腔検査センターを設置。
31年	1月	「神経内科」を「脳神経内科」に改称。
	4月	脳卒中センターを設置。
令和元年	12月	福岡県難病診療連携拠点病院として指定。
2年	4月	周術期支援センターを入退院・周術期支援センターに改組し、医療連携センターに編入。
3年	4月	院内措置施設であったARO次世代医療センターを中央診療施設として整備。
4年	4月	睡眠時無呼吸センターを廃止し睡眠時無呼吸専門外来を設置。
	8月	糖尿病診療支援センターを設置。
5年	1月	福岡県てんかん支援拠点病院として指定。

1936
昭和11年

昭和11年当時の病院

1947
昭和22年

原爆被害者調査団と九州大学原爆医療調査団代表